

第十可度芽^{こいね}枝^え能^{のう}蕪^わ字^じ本^{ほん}

或人い^いく^くと^とく^くい^いわ^わん^んく^くれ^れ家^か小^{せう}じ^じよし^{よし}
ゆ^ゆに^に少^{せう}多^た年^{ねん}む^むの^のさ^され^れを^をき^きん^んい^いと^とを^をく^く
少^{せう}と^と能^{のう}は^はう^うの^のく^くす^すあ^ある^るい^いき^きな^なり^り中^{ちゆう}ふ^ふ能^{のう}
ち^ちと^とい^いく^くる^るもの^の也^や其^{その}蕪^わと^とあ^ある^るか^かり^りて^てう^うら^らを^を
つ^つぬ^ぬ慈^じあり^りな^なら^らし^しあ^ある^るさ^さる^るき^きん^んい^いと^と能^{のう}と^とあり^り
て^て道^{だう}ふ^ふし^しと^と能^{のう}と^とあ^ある^るこ^こう^うと^とな^なる^るん^んと^とあ^ある^る道^{だう}
い^いら^らん^んと^とあ^ある^ると^とあり^りた^たと^とな^なる^るか^かり^りて^てい^いは^はな^なる^る
か^かり^りて^てい^いは^はな^なる^るか^かり^りて^てい^いは^はな^なる^るか^かり^りて^てい^いは^はな^なる^る
い^いの^のう^うと^とな^なる^るか^かり^りて^てい^いは^はな^なる^るか^かり^りて^てい^いは^はな^なる^る

見^みし^しら^らを^をい^いひ^ひし^しく^くう^うえ^えく^くめ^めけ^けと^と何^{なに}事^じを^を
と^とあ^ある^るん^んに^に重^{じゆう}泥^{でい}乃^のあ^あら^らし^して^て人^{ひと}あ^あい^いく^く
く^くあ^ある^るん^んに^に重^{じゆう}泥^{でい}乃^のあ^あら^らし^して^て人^{ひと}あ^あい^いく^く
あ^あや^やし^しを^をい^いく^くさ^さる^るの^のう^う者^{もの}に^にう^うら^らあ^ある^るゆ^ゆ
あ^あら^らし^しの^のい^いか^かさ^さみ^みあ^ある^るか^かり^りて^てい^いは^はな^なる^る
ゆ^ゆと^とあ^あら^らし^しの^のい^いか^かさ^さみ^みあ^ある^るか^かり^りて^てい^いは^はな^なる^る
い^いら^らん^んに^に重^{じゆう}泥^{でい}乃^のあ^あら^らし^して^て人^{ひと}あ^あい^いく^く
と^とあ^ある^るん^んに^に重^{じゆう}泥^{でい}乃^のあ^あら^らし^して^て人^{ひと}あ^あい^いく^く
方^{かた}乃^の不^ふ指^{さし}ら^らう^うぬ^ぬら^らほ^ほい^いか^かり^りて^てい^いは^はな^なる^る
柏^{かしわ}の^のと^と峯^{みね}に^にあ^あら^らし^して^て標^{ひょう}挑^{てう}れ^れ白^{しろ}い^いく^くゆ^ゆ

さうらうとくしやまの桃李ハ一旦乃忍いらるるなり松樹
 ハウツセ乃眞本なりといふ事也何れやいこ
 しく能く又能く此とくく何れ何れも
 先論ハ元来の后ありてなる所也といふは
 やしにたいせんやある一やうなるいふもの
 とくひしる能なきもや中め世の申れ
 かり新方振むういりハ深き小者ならえと
 してしる道くの能く又父祖小をい
 ぬれなすいふハ區よりと書くしむハ
 ずれなりといふもかこのとくも其書なり

業をつらうんちくらりか

中納言吉之侍徳伊波江口二品中務江兼明親皇沙
 子多村と沙付をく石つふあはるる
 てまこらやハゆ事とせしま一伊波菴乃々
 は衣とや一とあをころつはよむてあはは
 さうひーつと戸あきまにあつとゆき
 ころん一見せば屋と作くと何うや下く
 後日くううつさあをさ一先らてすい
 らまあり之上承承りともやとる一さし
 るし文ありきりしききて西院一きりに表

長流てこころをうす可なりと云々白きもんどうの
おのこをうすうすうすうすうすうすうすうすうす
人北沙子女もく人おろしきうすうすうすうす
紙と云々をうすうすうすうすうすうすうす
菟捕耶字多院乃花人ノ福丁の付あろみめ
うすうす俄ノ隔花遠勸酒と云々詩と紙して
捕耶と序者と云々嚴固此助成と云々うす
院門と云々して酒也と云々序乃序者云々自謙
乃白り云

附於李門之浪二年朝思未及

踏於蓬萊之雲十日夜飲已醉

こころをうすうす人云と秀然と云々其後文時ハ
云々踏蓬萊之雲一日と云々うすうす
うすうすうすうすうすうすうすうす
祖業をつまらさかしの伊海小八両うすうす
雲白大井河うすうす堪能れんと云々
うすうすうすうすうすうすうすうす
うすうすや大細言乃云々うすうす
うすうすうすうすうすうす

あさきと云々此花乃云々

ちる御象成まぬ人うな紀

後いそ終ける者何船よめるつとねとあは
しう山くらおころうちもきしう又云詩乃船よれ
りてく是かみの詩とほつうううゆはるんお
けくまーとく後悔せくまきるはる花山院乃
拾遺集と撰くまき海の時る御象成まぬ人
みらの渾くわくしとくさうし作られまら
大納言しからうううううううううううう
まうまて入しらの各融院大井河道遠乃時
この毎小乃ふくまううう

浦民戸心又この人ふとくうううううう白川院西
河又乃幸乃所詩奇友信此之乃うねさう
つとまのた乃人くとわうらの信らまき
信信口通い糸車乃外に沙家らくあーから
きれくとほりうまうとくううううううこの
とて誠はくう人少く人さうとて踏てやめお
まれをせうしとくまううううううういこ
うり乃かといしはうに通糸をううううう
そそ友信此乃小つとく詩書と厭せう
乃之舟ううのるこは是なり

後三條院位者沙幸むける可也後三條院位者代
をさす中つらまきりあひたいたく

奥は内吹吹もきりか行行はれ

十のみの三の宮城あゆあゆはれ

尚尚在秀方秀方よりきり師口のらら後教後教乃長
とひいていふ流流けるける在在今今集集いいまるまるるる
の奇奇り

是乃元のまを枯枯れつれつるるま

夢夢うらうらるる奥奥ははれれははれ

ははいいはは任任大大長長はは大大養養ききんん日日昔昔不不誼誼乃乃奥奥はは

そのころ中つらのここ入入てままとと養養小小ははきき
ななししやや後後花花いいるるここのの作作多多波波ゆゆるる全全をを
ままへへくくすすままははもも巨巨ららみみるる多多るるにによよりりて
ままるるくく任任大大長長乃乃ゆゆらんらん沙沙化化ハハレレハハ幼幼言言
よよててままるるるるてて和和階階よりより海海りり乃乃わわりりてて封封
彦彦にに居居るるんんととままるるくく肺肺ささととありありななんん也也
おおののいいくく感感動動ありありりり又又自自嘆嘆してして云云能能
頼頼家家乃乃ままるるままるるままるる中中ににままるるののままをを
秋秋風風ののここににままるるななはは年年々々ににままるる古古人人乃乃綿綿乃乃
帽帽子子一一多多るる尺尺八八のの琴琴瑟瑟ととななるるてて皇皇極極のの

賜是とて侍を詠しうもゆき眺をしる
ささるみ人止むひてあしつらつら
うははるまきいそめ方なれは建といもま
人乃之は一乃純のくくるさう小ありこま
れし人の中古しすつる莫あうり小能
乃しちには是し一ふ次

都良香竹を詠し詠うりけるに眺をんすめて
こふ世夢眼前盡といふをつらうて其も急を
事しゆうりくりに具殿院室とくしうて十二
因縁心裏空とつけゆる日人羅城つら前を

はく風とて氣晴ゆ抗新柳髪と詠しうりは
北の橋乃之に髪けうて水消浪浪は舊昔髪
こつけうりけし良香髪並相乃許しうては詩
と自詠しりるは下句の鬼れしとをなうとれ
作らまける世中しこらうしおらうとるを
人をくふりしきり其は髪之糸乃おれ前よ
うは家さくし枝下詠うらつまをくもていん
すゝ氣さうりた其の中乃人とおりしきり
いゝくはさきつらうり家はこのあろしうり
いゝくはさきつらうりはさきとてうらつきいせ人

此後にふくむき利ゆきゆの家乃らまは
らやこれのよしつるをてけつりける此
白の清原公大將と評しそまくりきりけり表
れ文なり

澁山と晴季將軍之在家

類水浪閑茶征虜之未仕

口都堂在寺也て曲る嘉とこふれはるにら

序とくこふとく

竟如廟荒春竹添一掬之淚

徐君墓古秋松懸三尺之霜

板海乃と紀沙府ひききりきり

迫くハ達係乃ら後也貞と此勅使より下

向乃時在寺とゆつて此文の序と此を

又らつて其序が記しりきり

青雲入手遠持使首於百万里之西

玄風深心泣并袒席於十一代之後

白海冷れあひと文とつてりか河友等涙

とてりきり補らささ出て沙弥史ありき

能因入道いふありとこふつかふとてなひて版

侍賢つ院乃女房くか賀とくふうとよん

けつとくせ

おはるおめいよよイ姉一とよもの

おはるくちなる歎物ん中は

と云ういふやうにはよみとも多うけるを
おれくふふと人よしいむらふれてわを
らまきんく傍ま之くとおひてす記ける
ふたりの大長小しめてきういぬとく
やわうらんこのるをせいらせき利はれも
ねとといくく氣におくきう世人う

とよめお賀とくいなき能因かうおめい

似るうりしめてそのつらう

中なるおまきうける女房世の中多えく
しかりまらんかおさらあいさうつといふ
むまおとよんらうける十七八とらやう
は流は是らうもしてわや記さぬたし
とせひらるかお記し八倍くわうてすい
りつとましくよしとわく御前少とわらこハ
今いにくもゆらんけおとんや記さぬ少と
見させしとて念珠とすりてうらな記

くべき所に母女にせしむつる母れいとを扱
しておぼせしつるすはるり以此に曉方了
なりて母べき所にいひておぼせしむつる
るよおらよめしむつるに二部をせしむつる
かられしむつる此とおぼせしむつる
よおらよめしむつるに二部をせしむつる
よおらよめしむつるに二部をせしむつる
よおらよめしむつるに二部をせしむつる
よおらよめしむつるに二部をせしむつる

身乃しむつる
おぼせしむつる

こよんきりきれに母れつる
いすすしてけしむつる七條すさ
乃おぼせしむつる殿上人
いりつるしむつるおぼせしむつる
車了おぼせしむつる始流い

和泉寺
すうてしむつるに

おぼせしむつる
あつるおぼせしむつる

世にありし様を御社にうつらして悲しい御沙汰は
とくくきこえきこふ

よめあつてあつてけるとうお祈りきき女中御内
御いれつるすまうつらいつらいつらいつらいつら
人うかるこもしぬやうにありてうしつら
少れに母をつつらにもしいあそびをなま
てなまけるにあそびつたにんじつて母は
をばくくせんとてしきれきま

いふよきんいふよきんいふよきんいふよきん
おやよきんいふよきんいふよきん

とわらわきこふ御一急おきりいひはく天井
うしよ急者てつらおきりいひはく天井
あつてつらとせえんてつらつらつら

江岸周和采乃伊とつて後やういそとら
つら伊吉乃伊とつてあつてつらつらつら
お深湯

かえらんといのれ命を御して

おとつらつらつらつらつらつらつら

とつらつらつらつらつらつらつらつら
おつらつらつらつらつらつらつらつら

菰^{あや}らりてこの幣^{へい}とともくつらむ^{つら}まひい^いふ^ふ
名^なぬ^ぬ乃^の江^え皇^{こう}此^こ女^{にょ}房^{ぼう}し^し小^こ大^{だい}進^{しん}と^とふ^ふ寄^より^りこ
り^り侍^し皇^{こう}の^の院^{いん}乃^の沙^さ衣^いれ^れつ^つま^まう^うせ^せう^うけ^ける^るを^を思^{おも}
て^て水^{みづ}に^にこ^こり^りて^て糸^{いと}文^{ぶん}ま^まて^てか^かり^りく^くま^まき^きら^らつ^つ
二^に日^{にち}と^とり^りふ^ふ又^{また}沐^{みく}水^{すい}と^とう^うら^らら^らり^りて^て以^も以^も以^もず^ずる^る
掛^かね^ね遠^{えん}使^しに^にお^おふ^ふ丁^{てい}比^ひし^し家^け矣^やや^やあ^あを^をき^きいて^てぬ
へ^へと^とを^をり^り以^もり^り小^こ大^{だい}進^{しん}り^りや^やり^りか^かや^やけ^けの^の中^{ちゆう}
に^にこ^こり^りと^とい^いそ^そお^おり^り今^{いま}二^に日^{にち}乃^のい^いと^と由^{よし}さ^さく^く之^{これ}持^{もち}
け^けも^もこ^こり^りな^なく^くい^いは^はれ^れを^をく^くて^て思^{おも}ふ^ふ人^{ひと}忍^{しの}ぶ^ぶ
中^{ちゆう}に^にや^やみ^みち^ちら^らら^らら^らは^はを^をま^まり^りつ^つぶ^ぶさ^さる^る女^{にょ}房^{ぼう}の

うら^{うら}が^があ^あま^まき^きて^てり^りき^きれ^れは^はい^いろ^ろと^とま^まし^しの^のい^い
う^うら^{うら}ら^ら程^{ほど}々^々

こ^こい^いい^いい^いや^やな^なま^まき^きえ^えは^はい^い成^{なり}ひ^ひう^うら^らま^まし^し
あ^あら^らん^ん水^{みづ}も^もあ^あら^らん^ん一^{ひと}は^はら^ら一^{ひと}は^は

こ^こい^いな^なく^くお^おの^の乃^のう^うす^すや^やう^うつ^つ言^{こと}に^につ^つじ^じて^て思^{おも}う^うて^てん
小^こま^まり^りあ^あり^りけ^ける^る本^{ほん}法^{ぽう}を^をい^い沙^さ衣^いよ^よ沙^さ衣^いり^り立^た
て^てや^やと^とお^おろ^ろり^りり^りり^りせ^せて^て家^けか^かき^きし^しう^うら^らま^まし^しの^の
三^{さん}湯^ゆに^に沐^{みく}し^しく^くゆ^ゆり^りつ^つて^て死^しす^すの^の乃^の乃^の沙^さ
ほ^ほろ^ろい^い給^{たま}は^はり^りて^て又^{また}せ^せい^いと^とり^りし^しと^とお^おり^り
終^{はつ}て^てう^うら^らま^まし^しら^らう^うせ^せた^たま^まひ^ひて^て云^い沐^{みく}乃^のん^んさ

とせぬといふ事清本此方うとんてすいれとて
こはの内るにやくんのよと乃坊てせせ
伊くまきまはせとててんた小大進一
はくとられてゆきり清前小前うすやうに
書ふ所おとんく是をりててするやうに
いふまゝぬり紀小こはとの南殿れ前うの
うせし所清衣とさふと六法師はととは式
徳とてきいせんん院堂ゆうしげりきん
からきて師子小いいてすうまきうけり
天沐乃けりきに平に巻くとせぬいしり

きるとてよ下たるとけりける小大進を
夕れにもかやうにいとさおひるすはう
まら紀ものありとされるゆんちうとて仁和寺
まら前ここのりわくきりかともい進すて
おちつらとこうこりかゝるぬ冠休ととけり
やとらと古今集序におかハ是亦乃於あり
やうの事おんねとこのはなれはらうま
うりそ一節
成道口野曲くそれをうきり免のよ
おころん花とあんうくまういけりる

へき渡者^トとや^ト一^トね^トうけるをけ人^トふらひ^ト
おり^トせ^トう^トま^トを^トん^トと^トま^トと^トめ^トい^トや^トう^ト
と^トふ^トお^トら^トん^トと^トけ^トる^トや^トま^トき^トの^ト小^ト
う^トき^ト一^トお^トら^トま^トは^ト人^ト也^トこ^ト海^ト一^トう^トん^ト
め^トか^トい^トれ^トれ^トも^トう^ト一^トた^トく^ト物^ト之^トを^トし^ト
や^トを^ト死^トゆ^トも^ト極^トま^トれ^トう^ト之^トや^トも^ト一^ト物^トん^ト
尸^トま^トた^トさ^トる^トや^トは^トと^ト

系^ト師^トれ^ト十二^ト乃^ト世^トいら^トん^ト公^ト高^トひ^トかり^トし^トち^ト
よう^トふ^トあり^トれ^ト一^ト徑^ト其^ト年^トハ^トさ^トさ^トら^ト
と^ト七^ト反^トは^トう^トう^トひ^トあ^トい^トき^トう^トり^ト終^トれ^トた^トと^トな

ら^トを^トあ^ト一^トて^トく^トさ^トん^トと^トわ^トる^トや^ト一^トか^トい^ト
き^トて^トま^トう^トき^トる^トも^トま^トな^トつ^トて^トえ^トん^トと^トう^ト
と^トあ^トひ^トて^トあ^トく^トと^トあ^トれ^トら^トる^トに^トお^トこ^トう^ト
け^トさ^トて^トお^トら^トふ^トけ^トる^トわ^トら^トふ^トけ^トら^トな^トさ^トす^トと^トう^ト

あ^トな^トり^トき^トこ^トら^トや^ト
清^トん^ト系^ト天^ト皇^ト一^トれ^ト乃^トを^トう^トに^ト御^トゆ^トき^ト一^トて^ト
琴^トと^ト引^トる^トふ^ト何^ト神^ト女^ト是^ト小^トの^トて^トお^ト陶^トく^トう^トう^トき^ト
之^ト由^ト又^トう^ト一^ト是^トを^ト又^ト高^トと^トあ^トき^トう^トう^トき^トう^トと^トよ^トら^ト
あ^トう^トれ^ト言^トふ^トて^トう^トり^トく^トう^トう^トす^トい^トぬ^トと^トさ^トこ^ト
かり^トる^トす^トい^ト娘^トと^トい^トは^ト神^ト女^トを^トう^トけ^トら^トる^トなり^ト陶^トら

きふと紀の安にそく

をしく絶こころおとあふひはもかろ玉を

ねとあはひすまのりつ玉成

ととあは未通女とつけあいまるむるあにそろ

らうととあこる神方心とくし山とらゆもせより

くきふ

村と帝月あつと東清原殿れひの沙さめて玄象

とよいまさう乃ほのれくろあそていさすまうて

ととこいほおろし甲一宮にくけれこもなほ

とよせいりりこころていさにかりたまた

もれうとこませとあひつた大唐のいそめそ

せあされ割沢所藤兼武といさういすこのと

ゆりすささの沙いそのもろ音れいさうさば

り糸なりお持りく、貞般ふさうけ孫の曲れ竹

をえりけりてまつるとおひふと門沙門念いん

乃さおりゆりて沙ひんをさうつるげしうま

くさうしうて是ハ唐兼武いそあそくい貞般

にうり門あひゆりゆりてゆりしり兼もすか

沙後活きてる曲とはうつけきとまつりきり

折西交互大辰月乃東いそをいさあひきた

唐義平の具ありて小女小つきて秘曲さへ聞かば
「傳へりく此具うらむいま好くおあつたす
定頼中納言は花経とよみまきていさく
とむいさるまらう揚勝仙人乃ささけりけるけ
事あり似たり

博雅之位丹あるとける東宮御一むて兼隆
門乃主人ありていひてよもさう笛を妙し
けりに御形一笛なる人ささけり笛を宮宮
作るむとまふりたよの笛れるよまたさ
かいたくさくさくさくはは阿やしくちく

ありて足代いませんね人なりきりてこれ
之れおもいたれれ物とつと物一く乃
こしく月よよたけありてうま本よさうま
殿ね彼人此笛の巻よたにうまうまけまら
んかよれをとりありて吹きたるにせよよれが
よの笛なりよの存る紙く月のはけありて
吹きれとむ笛さうさうさういさるをけ
まは厚くてなうくつててやとにたり三位
せて後津門の笛をたうてけの笛次ことさ
ゆせせむれははさうさうさうさうすくさう

きうの存淨益とふくまふ之吹方より
あつてうせきまらたけに位小をくらひた
神門威しぬいては苗れぬし兼崖つめ色
小て得るうきるとくらふけ淨益の取に於て
吹と作らむは六月のよううみはけては苗を
はたしつ乃とくきくくろあふ勢よて成一物
やとあふをさくとしうし兼まらうしやと
鬼のあつとまらうしうてりり兼二とむのあて
天下第一の苗なりしを存つるうては當道
此のやと成小くをくらふ兼寺院をけりせ

ふくまはらに涉経後小のらし小をけりては小葉
二河一にあく一にあかり物無く成とくといひ
ふくまは京極殿のりりきり付は兼系わらて成
ふくまらきくと富家入道殿のりり物多きい
けるふくま苗は兼皇帝園礼旋師子荒序星
ふくまの秘中ふくまは小とくは兼細十りる万
秋示乃又六指より苗は室物中は兼兼二大水
龍の龍頭焼やるふくまは小り各小よりて
ふくまの由は兼ふくまは小とくは兼略
八幡示人元正當宮は兼やう備中國吾河保

ありきり妙音院大長友尾法國（かとうりく）におく一押一ける付
よしくあつてめま一かつくふるまきつる七日小儀
きる来月の夜多りけるたいにを望まき毎
して（私）今（人）生（生）世（世）俗（俗）文字（字）業（業）といふ調（調）御（御）と
流（流）了（了）以（以）此（此）の（の）室（室）友（友）お（お）い（い）く（く）し（し）く（く）ゆ（ゆ）か（か）ら（ら）き（き）る
世（世）の（の）末（末）を（を）し（し）も（も）道（道）き（き）は（は）ま（ま）り（り）ぬ（ぬ）は（は）い（い）く（く）あ（あ）つ（つ）て（て）記（記）
と（と）し（し）り（り）

建仁乃江天寺小くすり多りける付沙
舍利（舍利）此（此）有（有）小（小）く（く）て（て）女（女）く（く）人（人）と（と）し（し）け（け）ら（ら）し（し）く（く）ま（ま）り（り）を（を）
以（以）此（此）の（の）坊（坊）より（より）次（次）寺（寺）僧（僧）老（老）る（る）に（に）は（は）ま（ま）り（り）

二乃江津小乃うある人（人）な（な）や（や）お（お）く（く）し（し）く（く）次（次）沙（沙）を（を）
何（何）り（り）流（流）之（之）と（と）中（中）将（将）守（守）道（道）と（と）女（女）く（く）人（人）神（神）示（示）と
し（し）く（く）多（多）り（り）し（し）く（く）沙（沙）舍利（舍利）を（を）る（る）に（に）は（は）ま（ま）り（り）天（天）
乃（乃）登（登）之（之）此（此）有（有）多（多）ん（ん）本（本）お（お）く（く）し（し）く（く）ま（ま）り（り）

南都小舞（舞）此（此）作（作）あ（あ）ら（ら）し（し）和（和）將（将）至（至）暗（暗）遠（遠）と（と）い（い）ふ（ふ）も（も）の（の）言（言）
主（主）代（代）を（を）還（還）城（城）示（示）と（と）い（い）ふ（ふ）し（し）く（く）一（一）も（も）悲（悲）小（小）つ（つ）ま（ま）
つ（つ）く（く）る（る）に（に）こ（こ）の（の）舞（舞）い（い）ま（ま）り（り）と（と）い（い）ふ（ふ）し（し）く（く）ま（ま）り（り）
多（多）る（る）に（に）あ（あ）ら（ら）し（し）く（く）る（る）に（に）は（は）ま（ま）り（り）し（し）く（く）ま（ま）り（り）
少（少）給（給）に（に）彼（彼）復（復）と（と）い（い）ふ（ふ）し（し）く（く）乃（乃）東（東）の（の）あ（あ）ら（ら）し（し）く（く）ま（ま）り（り）
ける（る）に（に）二（二）三（三）日（日）あ（あ）ら（ら）し（し）く（く）乃（乃）お（お）く（く）ま（ま）り（り）し（し）く（く）ま（ま）り（り）

に神のうつく言れしは此に安しと申すは
さうけりつけまは書子被取成てんんに
いまわたり多りゆはいおしり一まゝうてや
したは多りあつひは多りたに安しといふ
て此よりてんきりててなまうて同ッ我ん
まゝに此書入りてつて定らけり付むらあ
るやうにせんや日本此書一書下晴遠い
すは還輝系つておんれりその所つた多
このいもてに御國へ多えせんつた今度
つてつてつてばつてつてつてつてつて

よりかかんりしを何をか誠しと誠小志
りたりはあしとい常示合れすいつはつ
まゝに之をうとせりいつるをたよみ
けりやといはるるまき者もも候とあさ
せりはあさ事なたりとの候け舞とあさ
つてて存又しせふたりか子は上府を
とせりいさる晴遠せんうの舞人此家
還城示りてあさるけりいふと申す
なりま代是つてくもらうけりい
なり乃宝物しとあうと使ゆ候王
ま

いふをたもくせしむとわらふ

伶人助光翁没あふ事者げる小よりて
凡翁を乃下念にうらろふ以下念小地
蝟ウリもむむるものととをわとなすこころ小兼
まはりて大蛇あん乃とくいてあり以の仲子
小似る眼メの鏡乃とく之天をりある言を
こし知して大はあふすすく小せきんとす
ゆ光る申のぬいさうてうらわむもわなはを
くしより翁とぬきうて還味亦乃を
く大蛇を肉うてくい哉そくくはけてま

らく翁さきく氣色小を仰り去小けりまはの
もんらつとく人者りま乃沙をねらひ
せりも小をうて保印圖へのかりきたにあま
ぬかにうらむうらむいさきうせりき
ゆみや乃ゆぬぬぬ防我小カサ今へるひ
むくもふむあんとくいいてむらむあはれ
て厚さ乃しくむわくあ力堂やいすはるに
およすすは小をむさくきさくあはれ幸はあひ
しあさるむらつむさかきこてうらむさよく
あてきるせりさんさう事うらむらむかたはの

物なり少し一途くもむねむねとあるもの不
びふこ急してぬららふこもてういふと
なりゆきまじりしむねの^おおとゆきてゆめく
あつちの^おお今ほりやせむはえりいあつちの
してあつちの^おおと次年してんよゆ^おお
くう^おおやあつちの^おおとあつちの^おお
てこれんやうに^おおとあつちの^おお
えんやうに^おおとあつちの^おお
くう^おおとあつちの^おお
きてきよくをえゆをたき^おおの^おお

よく^おおとあつちの^おお
あつちの^おおとあつちの^おお
けさ^おおとあつちの^おお
ら^おおとあつちの^おお
こは^おおとあつちの^おお
厳重^おおとあつちの^おお

云唐乃^おおとあつちの^おお
とは^おおとあつちの^おお
て^おおとあつちの^おお
且^おおとあつちの^おお

世一者たれいに此より流るるを此の流るる
ら流るるに過つるに以て其の流るるは石の
流杖と云ふ事なり流るる文といはれしある
へうりつるを卷せしむる事ありしと其のむし
あくと流るる事ありしと其のむしありや
く流るる事ありしと其のむしありや
小舎人してゆれつる事ありしと其のむしありや
を木と云ふ事ありしと其のむしありや
非我下して其のむしありしと其のむしありや
世一て内蔵司に作てある事ありしと其のむしありや

坊より流るる白の流杖九段序あり

至迴翔於蓬鴻度使未逢
思極御放第山霜毛徒老

おれく沙字をらるる乃玉轄々民甲を備と乃
うこ尸文を以てつる事ありしと其のむしありや
坊より流るる事ありしと其のむしありや

依人而異事雖初偏頗
代天而授官誠懸運命

事と運命乃とは書をすし世にによりて沙き
くありし事ありしと其のむしありや

主母内妻せりりて俄に中院より行幸を代に
此の御侍子時簡玄象鈴契以下より
て中よりとて口説いて直轄の尸文はるる出
るやと沙為有る付人いりて事小う

尸文

東之原冥白前大政大臣九月十日之來月小
これと東之院念仏小まじりて向るに東之
少けて世居る三日月よりと母信民尸口を
こよひとまはいつわん御誦をめんやと作
られり終つたかこまりて赤りてるる御氣色

母をとく身とればとゆれ白と誦せんす
あらと御やと念換示言一奉こら出多り
ま海寺といひてそたりきり白と書とる
母者屋そと世にゆたりわら白ととさ
りこれ人のらうとひ小せとましりてい
かりん中乃とてしかりん白初學舎念
山根と賦とる序あり是之月十日乃事あり
九月十日之夜に誦せしむるいととねや由道
念仏乃まはりり小まじりてせられけるる屋
右人れうとて人なとや

よの状の中よ

非音^{ホネ}桓^{クワン}殿下^ノ之^ノ御威^{ミカドノ}兼又^{カミ}梁上^ノ之^ノ新^ニ盜^ト
此書半^ハる^ルと^シハ^シん^ニて^ハハ^シ状^ノと^シハ^シの^ノ書^ヲ
わ^ケ次^ニ儒^ヲ老^ニ以^テ半^スる^ニに^シて^ハハ^シ可^ク記^スく^レ也^ト此^ノ記^ノ
以^テ於^テ官^ノ官^ノ小^ノ大^ノ一^ニ等^トし^テ其^ノ外^ニ記^ス康^ノ貞^ノ
と^シハ^シの^ノ一^ニ等^トし^テ小^ノ大^ノ一^ニ等^トし^テ其^ノ外^ニ記^ス康^ノ貞^ノ
ハ^シ其^ノ是^ニに^シて^ハ康^ノ貞^ノと^シハ^シ文^ノ殿^ノ小^ノ大^ノ一^ニ等^トし^テ之^ノ
頼^ノ政^ノ乃^チ之^ノ位^ニ多^ク回^ルれ^ルま^シち^ウの^ノ末^ニゆ^キ氏^ノ藤^ノと
の^ノ氏^ノと^シハ^シつ^クま^シる^ニと^シハ^シも^トわ^ケら^ズる^ニと^シハ^シ小^ノ大^ノ一^ニ等^トし^テ

れ^ルま^シち^ウの^ノ末^ニゆ^キ氏^ノ藤^ノと
之^ノ乃^チ乃^チ一^ニ等^トし^テ之^ノ位^ニ多^ク回^ルれ^ルま^シち^ウの^ノ末^ニゆ^キ氏^ノ藤^ノと
る^ニに^シて^ハハ^シ可^ク記^スく^レ也^ト此^ノ記^ノ

人志^ニ事^ヲ以^テ大^ノ内^ノ屋^ノ戸^ノ乃^チ小^ノ大^ノ一^ニ等^トし^テ其^ノ外^ニ記^ス康^ノ貞^ノ
之^ノ乃^チ乃^チ一^ニ等^トし^テ之^ノ位^ニ多^ク回^ルれ^ルま^シち^ウの^ノ末^ニゆ^キ氏^ノ藤^ノと
る^ニに^シて^ハハ^シ可^ク記^スく^レ也^ト此^ノ記^ノ

之^ノ乃^チ乃^チ一^ニ等^トし^テ之^ノ位^ニ多^ク回^ルれ^ルま^シち^ウの^ノ末^ニゆ^キ氏^ノ藤^ノと
之^ノ乃^チ乃^チ一^ニ等^トし^テ之^ノ位^ニ多^ク回^ルれ^ルま^シち^ウの^ノ末^ニゆ^キ氏^ノ藤^ノと
る^ニに^シて^ハハ^シ可^ク記^スく^レ也^ト此^ノ記^ノ

山^ノは^シめ^テわ^ケら^ズる^ニと^シハ^シも^トわ^ケら^ズる^ニと^シハ^シ小^ノ大^ノ一^ニ等^トし^テ其^ノ外^ニ記^ス康^ノ貞^ノ
之^ノ乃^チ乃^チ一^ニ等^トし^テ之^ノ位^ニ多^ク回^ルれ^ルま^シち^ウの^ノ末^ニゆ^キ氏^ノ藤^ノと
る^ニに^シて^ハハ^シ可^ク記^スく^レ也^ト此^ノ記^ノ

智徳院きこりてはさしにふれり
作徳位乃より有きり

うらふらふらひのちりり
歌と道と争はりのちりり

くまて法徳いかに

信光ほうせん

川せつるくまをきり

さけく小法乃きりて

くまをてきせん
多てやううり法徳いかに

但馬書之りわらるる乃
立田ふたくれは

袖乃くまをきり

くまをて又采乃一階を

列高入道惟方又二系院

中へ小なりて後白川の法徳

きり其存おなりくまを

あまのこも身ひらけいふ成るいしきん一は
一はあ

あまの世少と一いじせきあひまは
なれいあもめく神の那

とらんで正心とくらえけるは法をば
いさう一免してつるねせあてし
おろくおろし一はねは言くうてあ
たはあちり

信名御院沙阿定家口辰上人よりおりま
けいひまるといへる勅諭をいあひしき

きりうけくす備もおむいけに其と一とむ
一く言ふは父後成之位に事をおけ
てかくらるるに識事につまきりま

あまの世のまぢあゆまきり
辰をよやなるといへる

識事あまの世にうもん一は純心とて
有て是長新長とあまの世にうもん
あまの世のまぢあゆまきり
今日とて乃とてあまの世

屋の殿上れしきりま

大女院と申ける交れ沙取乃うらに女房に抱
Pさんとて花人惟親玉のいて申けりきりきり
信も足つとてあやしこいきりにかぐりて
あつた北の門をさしてうや多うけるなり

赤く紅き本乃丸玉の小あつたねも

まのうせぬをば人こつ使々り

こころきりさのうらわくそ女房院と申れは
中ふさしよきり

白示元乃あるこころ春燗度乃真よひつて
はくうまいてうらうらに花おりろき家乃者言

こころにわくまう入うりけるをわしり乃ちやうん

こころはれ

遠見人家花使入

不_ぢ論_ぢ美_ぢ燗_ぢと_ぢ親_ぢ疎_ぢ

こころきりによりて赤ふこころはくり骨抱さうんす
ふつせいこの本に信り

標_ぢ鴻_ぢ志_ぢ信_ぢ々_ぢ久_ぢ隔_ぢち_ぢ少_ぢて_ぢう_ぢり_ぢき_ぢる_ぢ小_ぢ木_ぢは_ぢひ_ぢの

つるたうらあきおきか有けるささうはつと
て免りじうんこころはれ

老てて言のふきはいきりきり

しちくんのうらあきいふいふ

こよみくゆりにきうるう乃申れこ小けす
こよみいもせの中をなりくる妹きりより
いふくきくいきをそれうこれつういをい
まらひいまうききよめよさるるうい
こもんえふいよのこく多る人
指撰集いこかつ乃清子れほらる成
こるてこいひれい童乃こみの神
はけ

は免こもかかれぬまのいなり

さうわおまわらがりいなり

こわい家王いこわい信い共是をこまはか乃
わに多うううてやみ小けり神け奇を
中と物流ははつめ清子れ古いさゆきやう
乃西子にもんいふいまる成さるれ文章女男
清子成おいけてうめ西子乃ほらるうて
とありきりにこみの神いほらるさうかつ
やしてりあるとつういれ小中こちうは後成
乃るるいれる右来風祈抄とふものよは
かつこれ清子と也P女清子のかる風さう
てさき有る終をわははこめかりきぬる神

よつぐとそきてまらるとてよあると清子哉
不^レとこ^レ又^レこ^レも^レあ^レら^レ好^レてわ^レく^レ人^レめ^レい^レか
せ^レ海^レう^レと^レか^レき^レう^レり^レ説^レこ^レ此^レ不^レ同^レあ^レは^レえ
こ^レ中^レ勢^レ口^レ重^レ明^レ祝^レと^レこ^レつ^レく^レ乃^レ銀^レと^レく
り^レす^レ字^レ多^レ才^レ五^レ乃^レ文^レ成^レ松^レ管^レ内^レ銀^レ玉^レ何
乃^レ事^レは^レそ^レい^レぬ^レく^レ一^レ寐^レ蓬^レ々^レ奇^レく

思^レい^レわ^レき^レは^レ神^レく^レく^レる^レを^レつ^レて^レも
何^レも^レや^レ物^レを^レせ^レふ^レ人^レを^レ新^レ

こ^レう^レ先^レ取^レけ^レし^レら^レも^レや

伊^レ勢^レ物^レ流^レし^レは^レ二^レ條^レ乃^レ言^レ此^レと^レは^レく^レま^レつ^レ家^レ男

不^レ奇^レく^レ女^レれ^レの^レ成^レえ^レう^レは^レて^レも^レま^レい^レこ^レ
り^レ多^レれ^レも^レつ^レき^レふ^レり^レき^レた^レい^レて^レま^レの^レふ
し^レに^レき^レい^レせ^レん^レて^レお^レわ^レく^レな^レく^レお^レも^レい^レけ^レや
く^レる^レて^レま^レく^レく^レら^レん^レを^レい^レは^レれ^レま^レの
こ^レう^レて^レあ^レふ^レま^レの^レこ^レう^レな^レて^レ

い^レこ^レり^レま^レい^レを^レ函^レさ^レり^レぬ^レあ^レつ^レ乃^レふ
る^レく^レ何^レの^レ言^レを^レ今^レこ^レや^レせ^レく^レよ

け^レ弁^レ小^レつ^レて^レわ^レい^レふ^レたり^レか^レく^レハ^レく^レミ^レは^レ函^レと
ハ^レ后^レ乃^レ沙^レ事^レと^レ也

河^レ内^レ重^レ如^レと^レは^レ山^レ次^レ高^レ判^レ友^レ代^レと^レか^レり^レす^レ乃

一 船いやさきものふねこもわきよりたうきせを
おひしきくわとせうじてひつしひらては
くわきや

いしひてらりむやしろくくふたに

とまはつひもばひしとくまつ

せんふてくまひしよりふ乃む河内より
東に人乃はてしてまをりし利
いしとせれは乃ゆとれはりまかへて
と齊しんたり

きゆとなくあら城の所々へ佛

いしひてらりむやしろくくふたに

和泉武部志のいていあり一書りつらにきとる乃
明休め乃乃をにてまをりしとるをい
はくことおもふうにうりまはるはめ成
とつとよとあらてぶくまはるよまわけう
乃かくしむよりまはるめ成をうりまはる
きうふつき乃日武部り乃と成んは
てわらるよおかきやうあるうりし文を拵て
きうしんまはるわきよまはるすのめうりし
とふれ沙文よりまはるんせしひてきうと

ふ風うつあそびは

まふいよるいあふりや月のおまはら

おまはらうまうまうおまはらうまてき

さうさきうらふり或^{あつ}部^ああふれしこひくけい

はすおくりくくこころいよまひりれまはら

るん

十訓鈔卷下